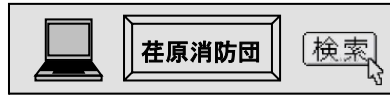


えばら 消防団だより

平成29年2月 第65号



編集・発行 荏原消防団
品川区平塚三丁目16番20号
☎ 090-4704-4544



しながわ中央公園(区役所前) 防災機能を備えてオープン

— 荏原消防団が消防操法の模範演技 —

平成29年1月29日(日)、しながわ中央公園の拡張整備が完了し、記念式典が行われました。今回整備されたのは、日本たばこ産業の社宅跡地7600平方メートルで、防災機能を持った公園に生まれ変わりました。

緊急時の人員、物資の搬送を担うヘリポート、地下には1000立方メートルの防火水槽2基、3千人分の備蓄倉庫、災害時にはテントで囲い応急救護場所として活用できる子供向けの遊具が新設されました。また、広場は、仮設住宅の用地としても想定されています。

式典後には、陸上自衛隊のヘリコプター2機が次々と飛来、物資やけが人の搬送の実演を行いました。災害時支援ボランティア、町会の消防団に引き続き、荏原消防団第六分団が可搬ポンプを用いた消防操法の模範演技を行いました。ヘリポートは、消防団や町会などが放水訓練に使用できるよう訓練用消火栓が設置されており、今後の活用が期待されます。
(記事 第五分団)



荏原消防団第六分団による
消防操法の模範演技



自衛隊・消防関係車両の展示
(しながわ中央公園拡張部全景)



自衛隊のヘリコプターによる、
けが人輸送の実演(ヘリポート)

品川区三消防団 合同点検

— 訓練成果の発表 —

平成28年11月27日(日)、都立林試の森公園にて、品川、大井、荏原各消防団による品川区三消防団合同点検が行われました。



消防総監による部隊検閲



AED(自動体外式除細動器)を使用した応急救護活動

災害活動訓練では、地域住民との連携した初期消火、救助、応急救護活動や迅速な活動ができる自転車移動による特殊技能団員の救助活動、AEDを活用した応急救護活動の訓練成果を披露しました。また、消防署隊と連携した消火訓練など、迅速かつ規律ある行動ができました。
各分団の日頃の訓練や資機材の点検整備が、災害時の重要な備えとなっているのだと、あらためて感じました。(記事 第一分団)

1月26日は 文化財防火デー

文化財防火デーは、昭和24年1月26日の法隆寺金堂の火災を教訓として、文化財を火災などから守ることを目的に開始されました。

今年、旗岡八幡神社にて、文化財に対する地域住民の防火意識の高揚を目的とし、第三・七分団、消防署隊、旗の台三丁目区民消防隊などが参加して消防演習が行われました。



社務所から出火、品川区指定文化財「絵馬」へ延焼する危険性を想定した消防演習

年末年始 消防特別警戒

平成28年12月29日(木)から元旦(日)にかけて、荏原消防団管轄全地域で、年末年始消防特別警戒を実施しました。

団員は、各分団詰所に参集し、積載車および徒歩による防災パトロールを行い、地域住民の方々への注意喚起と火災予防に努めました。特別警戒期間中大きな火災は無く、無事に新年を迎えることができました。
(記事 第二分団)



荏原消防団始式

—地域の防災リーダーとしての決意新たに—

平成29年1月8日(日)、スクエア荏原にて、新春恒例の荏原消防団始式を品川区長、消防総監をはじめとして多数のご来賓をお招きし、厳粛な雰囲気の中で挙行しました。

式典では、荏原消防団の活躍が評価され消防総監特別優良表彰として、消防総監から表彰状と表彰旗が授与されました。

顕著な功績のあった団員・分団に対する表彰後、昨年入団した16名の団員を代表して第三分団の木村有宏団員が「消防団員としての責務を自覚し、区民の安全、安心を確保するため、訓練に励むとともに、規律保持に努め、地域の防災リーダーとして、積極的に活動することを誓います」と力強く士気宣言を行いました。新入団員の今後の活躍を期待します。

(記事 第三分団)



消防総監特別優良表彰 表彰旗



新入団員代表の士気宣言



表彰

消防総監特別優良表彰 表彰旗		荏原消防団	消防総監功績章	荏原消防署長表彰(優良分団)	荏原消防団長表彰(優良団員)
第一分団	副分団長 名城 悟	第一分団	第一分団 副分団長 久保田修司	第一分団	第一分団 副分団長 大貫 和夫
第二分団	副分団長 吉田 蘭子	第二分団	第二分団 副分団長 村山 浩幸	第二分団	第二分団 副分団長 石原 明美
第三分団	副分団長 林 研治	第三分団	第三分団 副分団長 石原 明美	第三分団	第三分団 副分団長 藤野英登志
第四分団	副分団長 林 研治	第四分団	第四分団 副分団長 古宮 隆広	第四分団	第四分団 副分団長 石井 茂
第五分団	副分団長 林 研治	第五分団	第五分団 副分団長 羽田 和広	第五分団	第五分団 副分団長 溝口 斐狩
第六分団	副分団長 林 研治	第六分団	第六分団 副分団長 千葉 信昭	第六分団	第六分団 副分団長 吉田 倫貴
第七分団	副分団長 林 研治	第七分団	第七分団 副分団長 小泉 隆一	第七分団	第七分団 副分団長 徳田 新吾
第八分団	副分団長 林 研治	第八分団	第八分団 副分団長 前川 光生	第八分団	第八分団 副分団長 小山 太朗
第九分団	副分団長 林 研治	第九分団	第九分団 副分団長 宮崎 謙一	第九分団	第九分団 副分団長 田口 優
第十分団	副分団長 林 研治	第十分団	第十分団 副分団長 里吉 正人	第十分団	第十分団 副分団長 新井 敏江
第十一分団	副分団長 林 研治	第十一分団	第十一分団 副分団長 大倉 考裕	第十一分団	第十一分団 副分団長 島田 和三
第十二分団	副分団長 林 研治	第十二分団	第十二分団 副分団長 岩井 淳	第十二分団	第十二分団 副分団長 安達 敏行
第十三分団	副分団長 林 研治	第十三分団	第十三分団 副分団長 小川 恵	第十三分団	第十三分団 副分団長 飯田 浩之
第十四分団	副分団長 林 研治	第十四分団	第十四分団 副分団長 東風谷牧子	第十四分団	第十四分団 副分団長 神保 孝行
第十五分団	副分団長 林 研治	第十五分団	第十五分団 副分団長 晒野 美紀	第十五分団	第十五分団 副分団長 稲川 貴之
第十六分団	副分団長 林 研治	第十六分団	第十六分団 副分団長 野木 克義	第十六分団	第十六分団 副分団長 佐々木登貴
第十七分団	副分団長 林 研治	第十七分団	第十七分団 副分団長 藤本 博	第十七分団	第十七分団 副分団長 長南 弓子
第十八分団	副分団長 林 研治	第十八分団	第十八分団 副分団長 宮島玄次郎	第十八分団	第十八分団 副分団長 清文
第十九分団	副分団長 林 研治	第十九分団	第十九分団 副分団長 吉田あつみ	第十九分団	第十九分団 副分団長 宇田 大志
第二十分分団	副分団長 林 研治	第二十分分団	第二十分分団 副分団長 飯野 裕二	第二十分分団	第二十分分団 副分団長 平松 眞紀
第二十一分団	副分団長 林 研治	第二十一分団	第二十一分団 副分団長 竹山 繁和	第二十一分団	第二十一分団 副分団長 鈴木 彩夏
第二十二分団	副分団長 林 研治	第二十二分団	第二十二分団 副分団長 安達 静江	第二十二分団	第二十二分団 副分団長 鈴木 希実
第二十三分団	副分団長 林 研治	第二十三分団	第二十三分団 副分団長 池田 親泰	第二十三分団	第二十三分団 副分団長 野村理恵子
第二十四分団	副分団長 林 研治	第二十四分団	第二十四分団 副分団長 親泰	第二十四分団	第二十四分団 副分団長 倉持 大輔
第二十五分団	副分団長 林 研治	第二十五分団	第二十五分団 副分団長 林 研治	第二十五分団	第二十五分団 副分団長 倉持 大輔
第二十六分団	副分団長 林 研治	第二十六分団	第二十六分団 副分団長 林 研治	第二十六分団	第二十六分団 副分団長 倉持 大輔
第二十七分団	副分団長 林 研治	第二十七分団	第二十七分団 副分団長 林 研治	第二十七分団	第二十七分団 副分団長 倉持 大輔
第二十八分団	副分団長 林 研治	第二十八分団	第二十八分団 副分団長 林 研治	第二十八分団	第二十八分団 副分団長 倉持 大輔
第二十九分団	副分団長 林 研治	第二十九分団	第二十九分団 副分団長 林 研治	第二十九分団	第二十九分団 副分団長 倉持 大輔
第三十分分団	副分団長 林 研治	第三十分分団	第三十分分団 副分団長 林 研治	第三十分分団	第三十分分団 副分団長 倉持 大輔

編集後記

糸魚川火災に思う

昨年12月22日新潟県糸魚川市において、建物147棟、焼損面積が約3万400平方メートルの大火災がありました。幸いにも死者はゼロでした。

出火原因は鍋の空だきですが、風などの自然条件と、その土地特有の物理的な条件が重なり、消防隊や消防団等の懸命の消火作業にも関わらず、信じられないような大火になりました。人的被害が少なかつたのは、屋内型防災行政無線と普段からの隣人との絆が役立ったことも一因だと報道されました。

荏原地区は、木造住宅の密集地域です。糸魚川市のような大火に見舞われる可能性があります。

この火災から学ぶことは、地域の人々とのつながりが大切であるということです。防災訓練等を含め、日頃から助け合い、声を掛け合い、支え合う事が被害を小さくすることに結びつくのではないのでしょうか。

これからも消防団員として、地域とつながる努力を続けていきたいと思います。(第四分団 小泉隆一)

広報委員会

編集委員	福田 千穂	廣昭	小泉 隆一
第一分団	村田 信治	第五分団	栗川 文雄
第二分団	松本 純一	第六分団	前川 光生
第三分団	近藤 常広	第七分団	鈴木 根根
第四分団	泉 清文	第八分団	鈴木 根根
第五分団	近藤 清文	第九分団	鈴木 根根
第六分団	近藤 清文	第十分団	鈴木 根根
第七分団	近藤 清文	第十一分団	鈴木 根根
第八分団	近藤 清文	第十二分団	鈴木 根根
第九分団	近藤 清文	第十三分団	鈴木 根根
第十分団	近藤 清文	第十四分団	鈴木 根根
第十一分団	近藤 清文	第十五分団	鈴木 根根
第十二分団	近藤 清文	第十六分団	鈴木 根根
第十三分団	近藤 清文	第十七分団	鈴木 根根
第十四分団	近藤 清文	第十八分団	鈴木 根根
第十五分団	近藤 清文	第十九分団	鈴木 根根
第十六分団	近藤 清文	第二十分分団	鈴木 根根
第十七分団	近藤 清文	第二十一分団	鈴木 根根
第十八分団	近藤 清文	第二十二分団	鈴木 根根
第十九分団	近藤 清文	第二十三分団	鈴木 根根
第二十分分団	近藤 清文	第二十四分団	鈴木 根根
第二十一分団	近藤 清文	第二十五分団	鈴木 根根
第二十二分団	近藤 清文	第二十六分団	鈴木 根根
第二十三分団	近藤 清文	第二十七分団	鈴木 根根
第二十四分団	近藤 清文	第二十八分団	鈴木 根根
第二十五分団	近藤 清文	第二十九分団	鈴木 根根
第二十六分団	近藤 清文	第三十分分団	鈴木 根根

第三分団	中村 友子様
第六分団	稲垣 裕子様
第七分団	鈴木 良一様